



ローカル ルート グループ

この章では、ローカル ルート グループに関する次の情報を提供します。

- [ローカル ルート グループの概要 \(P.23-2\)](#)
- [ローカル ルート グループでのルーティング \(P.23-4\)](#)
- [単純なローカル ルーティング \(P.23-5\)](#)
- [テール エンド ホップ オフ \(P.23-7\)](#)
- [着信側変換 \(P.23-9\)](#)
- [ローカル ルート グループのシステム要件 \(P.23-12\)](#)
- [インタラクションおよび制限事項 \(P.23-12\)](#)
- [ローカル ルート グループのインストールとアクティブ化 \(P.23-15\)](#)
- [ローカル ルート グループの設定 \(P.23-15\)](#)
- [ローカル ルート グループの設定チェックリスト \(P.23-15\)](#)
- [ローカル ルート グループのサービス パラメータの設定 \(P.23-17\)](#)
- [関連項目 \(P.23-18\)](#)

ローカルルートグループの概要

ローカルルートグループ機能は、多数のロケーションを使用する集中型の Cisco Unified Communications Manager 構成でのプロビジョニングに関して、複雑さやメンテナンスの労力を軽減するのに役立ちます。ローカルルートグループ機能の根本的な進歩によって、ゲートウェイへのアクセスに使用されるルートパターンから PSTN ゲートウェイのロケーションを切り離せるようになりました。

Cisco Unified Communications Manager Release 7.0(1) では、発信側デバイスのローカルルートグループ用デバイスプールの設定にそれぞれ基づいてプロビジョニングされたルートグループにバインドできる、特別なローカルルートグループを導入しています。そのため、電話機など、別個のロケールにある複数のデバイスで、同一のルートリストおよびルートパターンを使用できます。ただし、Cisco Unified Communications Manager は、それ自体のローカルエンドに対して正しいゲートウェイを選択します。



(注)

このマニュアルでは、管理者が Cisco Unified Communications Manager の管理ページの [コールルーティング (Call Routing)] > [ルート/ハント (Route/Hunt)] > [ルートグループ (Route Group)] メニュー オプションを使用して設定するルートグループを指して、プロビジョニングされたルートグループという用語を使用します。

ローカルルートグループ機能には、Cisco Unified Communications Manager の実装にプロビジョニングされるべきルートリストおよびルートパターンの数を削減する機能があります (この実装では、N 個のサイトそれぞれが、その他の N-1 個のリモートサイトのローカルゲートウェイにアクセスできる必要があります)。このようなシナリオの 1 つの例として、Tail End Hop Off (TEHO; テールエンドホップオフ) があります。

単純なローカルルーティングの場合、プロビジョニングは N 個のルートパターンおよびルートリストから、1 個のルートパターンおよびルートリストへと削減されます。テールエンドホップオフ (TEHO) の場合は、ローカルルートグループによって、N² 個のルートパターンおよびルートリストの代わりに、N 個のルートパターンおよびルートリストの設定が可能になります。現在では、より大規模な実装のために N の値が 1000 をはるかに上回る値に達しているため、結果として、スケーラビリティのための非常に大きな削減につながります。

以前は、Cisco Unified Communications Manager はゲートウェイを、複数のパターンの割り当て先デバイスとして扱っていました。ゲートウェイと、Cisco Unified Communications Manager がゲートウェイを関連付けるパターンとの間には、厳密で柔軟性にやや欠けるバインドが存在していました。コールが発信されると、Cisco Unified Communications Manager は状態を、「発信者 X がある番号をダイヤルした。これらの番号はパターン Y に一致する。パターン Y はルートリスト、ルートグループ、およびゲートウェイ A、B および C に直接関連付けられている」と見なしました。

次の各項では、ローカルルートグループのプロビジョニングに関して詳細に説明し、その使用例を示します。

- [ローカルルートグループ \(P.23-3\)](#)
- [コール中に、プロビジョニングされたルートグループをローカルルートグループへバインド \(P.23-3\)](#)
- [ローカルルートグループでのルーティング \(P.23-4\)](#)
- [着信側変換 \(P.23-9\)](#)

追加情報

[P.23-18](#) の「[関連項目](#)」を参照してください。

ローカル ルート グループ

管理者は、新しいルート グループをルート リストに追加すると、選択対象であるすべての使用可能なルート グループを [ルートリストの設定 (Route List Configuration)] ウィンドウで確認できます。このリストには、[標準ローカルルートグループ (Standard Local Route Group)] と名付けられた特別なルート グループが、リストの最初のメンバとして含まれています。このローカル ルート グループは、仮想ローカル ルート グループを示します。

ローカル ルート グループは、プロビジョニングされたルート グループには静的にバインドされません。ローカル ルート グループは [ルートグループの検索と一覧表示 (Find and List Route Groups)] ウィンドウには表示されないため、削除や変更を行うことはできません。ただし、ローカル ルート グループを任意のルート リストに追加することは可能です。この追加が行われると、ローカル ルート グループはプロビジョニングされたルート グループのプレースホルダとして機能します。プロビジョニングされたルート グループはその後、コールの設定時にローカル ルート グループに動的にバインドされます。

ローカル ルート グループをルート リストに追加すると、後でそのローカル ルート グループをリストから削除したり、またはプロビジョニングされた任意のルート グループと同様に、リスト内における検索順序の場所を変更したりできるようになります。

追加情報

P.23-18 の「関連項目」を参照してください。

コール中に、プロビジョニングされたルート グループをローカル ルート グループへバインド

プロビジョニングされたルート グループのローカル ルート グループへのバインドをコール設定時まで保留すると、プロビジョニングされた目的のルート グループが、コールを発信しているデバイスに対してローカルなグループになります。このため、ロケーション X にあるデバイスはロケーション X の PSTN のゲートウェイを含むプロビジョニングされたルート グループを使用し、ロケーション Y にあるデバイスはロケーション Y の PSTN のゲートウェイに関する別のプロビジョニングされたグループを使用します。

システムの各デバイスがそのローカル ルート グループを認識するためにプロビジョニングされているということを、確認する必要があります。何千ものデバイスが存在する可能性があるため、各デバイスの設定ウィンドウでこの情報を特定せずにはすむよう、Cisco Unified Communications Manager の管理ページを使用して、デバイスのデバイス プール内で情報を特定できます。これは、デバイス プールが共通のサイト特有の情報を指定するためです。

[デバイスプール設定 (Device Pool Configuration)] ウィンドウの [ローカルルートグループ (Local Route Group)] フィールドには、使用可能なすべての (プロビジョニングされた) ルート グループを一覧表示するドロップダウン リスト ボックスがあります。このリストには、特別な標準ローカル ルート グループの名前は表示されません (デバイス プールでは、プロビジョニングされたルート グループだけが設定されるためです)。ただし、このリストには、最初の (デフォルトの) 選択肢を示す <NONE> という特別な名前が表示されます。バインドを希望しない場合は、<NONE> を選択します。

デフォルトの値である <NONE> がデバイス プールに対して選択されている場合、ローカル ルート グループである標準ローカル ルート グループを含むルート リストを使用するコールは常に、標準ローカル ルート グループがリストに存在しないかのようにルーティングされます。

このメカニズムに基づき、特別な標準ローカル ルート グループを含むルート リスト上のデバイスから発信されるコールは、次のように動作します。

1. ルートリストのアルゴリズムによって、未使用のトランクが見つかるまで、含まれているルートグループのリストが指定の順序で検索されます（以前および現在の実装に違いはありません）。
2. 検索によって特別な標準ローカルルートグループが検出されると、このルートグループは自動的に、発信側デバイスに対してプロビジョニングされているローカルルートグループの名前に置換されます。ただし、検索結果が次のいずれかである場合は例外です。
 - プロビジョニングされたルートグループが <NONE> を示している場合、標準ローカルルートグループは完全にスキップされます。
 - 標準ローカルルートグループがこのようにスキップされることによって検索が終了すると（つまり、標準ローカルルートグループがルートリスト内の最後または唯一のルートグループとなった場合）、ルーティングは中断し、ユーザはリオーダー音（または同等の通知）を受信します。

追加情報

P.23-18 の「関連項目」を参照してください。

ローカルルートグループでのルーティング

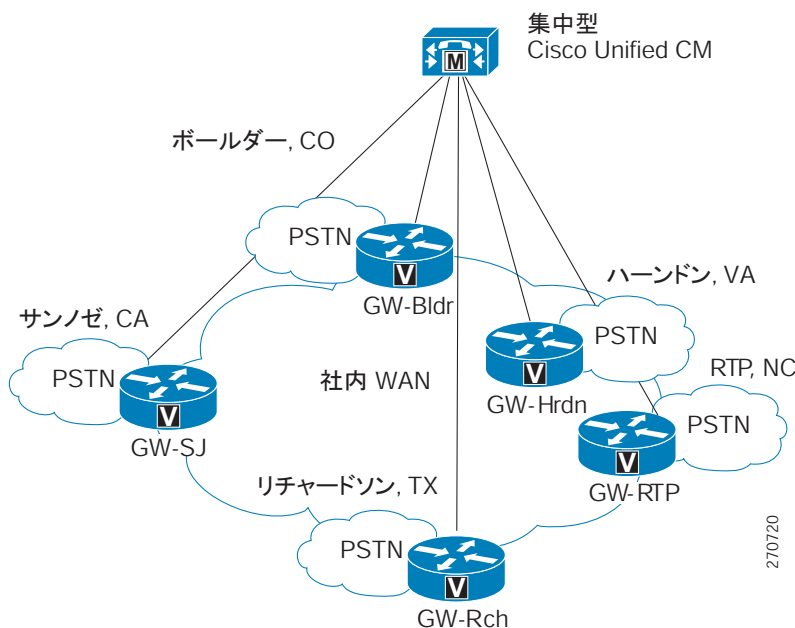
ローカルルートグループのマッピングによって、Cisco Unified Communications Manager はゲートウェイをサービスのよう扱うことができます。お客様はこのソリューションによって、ルートプランをプロビジョニングおよびメンテナンスするための労力を省けるという利点が得られます。

例

この例では、図 23-1 に示すように、5つの管理対象サイトを持つ集中型コールモデルを想定しています。以降の項では、このコールモデルを使用して、ローカルルートグループ機能に関する次の2種類の現象を示します。

- 各サイトがオフネットコールをローカルゲートウェイにルーティングする必要がある、単純なローカルルーティングのケース。
- より複雑なテールエンドホップオフ（TEHO）のケース。

図 23-1 集中型モデルでのローカルオフネットアクセスの管理



ローカル ルート グループ機能を使用する Cisco Unified Communications Manager の構成では、目的の接続先に必ず到達するように、着信側変換によってコールされた番号を正規化する必要があります。

追加情報






P.23-18 の「関連項目」を参照してください。

単純なローカル ルーティング

単純なローカル ルーティングは、各サイトがそのローカル ゲートウェイにオフネット コールをルーティングすることが必要なケースに対応します。ルート パターンおよびルート リストのプロビジョニングについては、N 個のルート パターンおよびルート リストを設定する手間を、1 個のルート パターンおよびルート リストだけの設定に減らすことができます。

このケースではさらに、ある特定のサイトをホームとしている電話機すべてが、そのサイトに固有の単一のコーリング サーチ スペース (CSS) に属していると仮定します。たとえば、ボールダーサイトにある電話機は、CSS-Bldr コーリング サーチ スペースに属しています。その他のサイトも同様にそれぞれ CSS に属しています。図 23-2 は、ローカル ルート グループ機能を使用しない状態で、このシステムで発生し得るプロビジョニングを示しています。つまり、9 をダイヤルし、続けて 7 桁、10 桁、または 11 桁のパターンをダイヤルしてオフネット コールを発信する場合には、電話機はサイトに関係なく、常にそのローカル ゲートウェイを優先します。さらに多くのサイトが追加されると、それぞれのカラムは新しいエントリ (列) を含める必要があります。N 個のサイトが存在する場合は、N 個のルート リスト、ルート パターン、パーティション、およびコーリング サーチ スペースが必要となります。

図 23-2 ローカル ルート グループを使用しないローカル オフネット アクセスのプロビジョニング

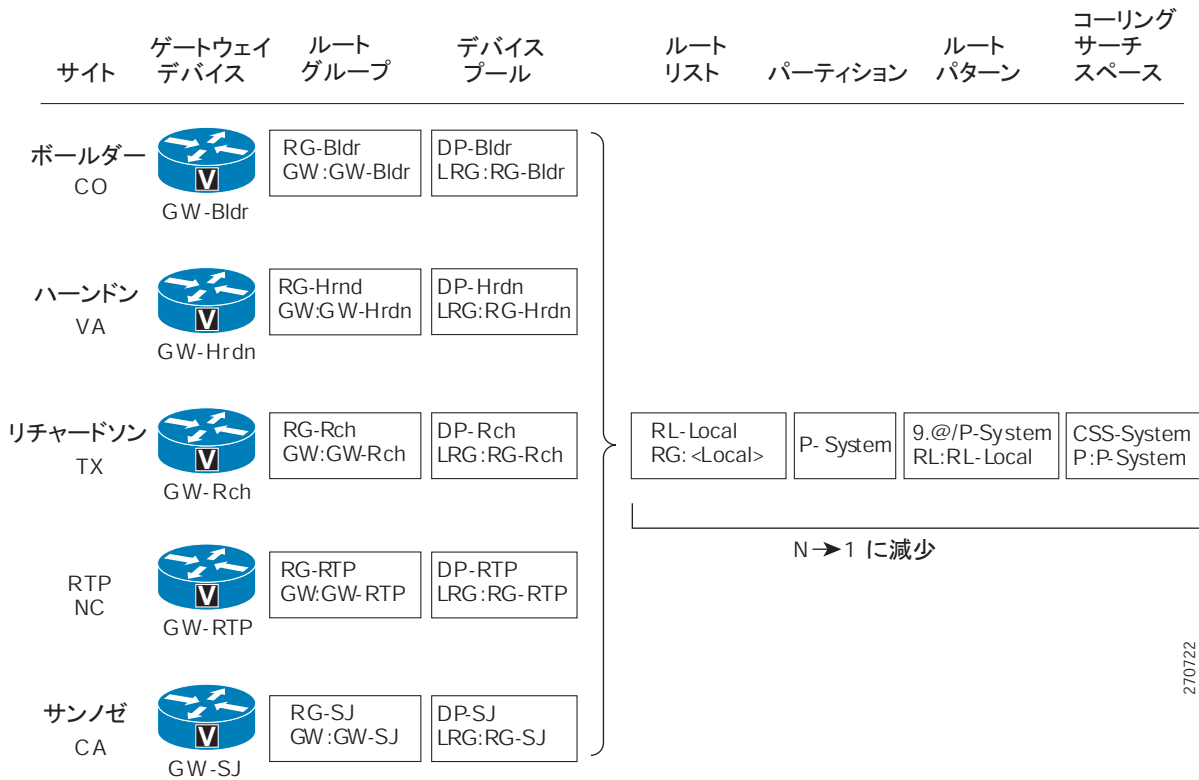
サイト	ゲートウェイ デバイス	ルート グループ	デバイス プール	ルート リスト	パーティション	ルート パターン	コーリング サーチ スペース
ボールダー CO	 GW-Bldr	RG-Bldr GW:GW-Bldr	DP-Bldr	RL-Bldr RG:RG-Bldr	P-Bldr	9./P-Bldr RL:RL-Bldr	CSS-Bldr P:P-Bldr
ハーンドン VA	 GW-Hrdn	RG-Hrdn GW:GW-Hrdn	DP-Hrdn	RL-Hrdn RG:RG-Hrdn	P-Hrdn	9./P-Hrdn RL:RL-Hrdn	CSS-Hrdn P:P-Hrdn
リチャードソン TX	 GW-Rch	RG-Rch GW:GW-Rch	DP-Rch	RL-Rch RG:RG-Rch	P-Rch	9./P-Rch RL:RL-Rch	CSS-Rch P:P-Rch
RTP NC	 GW-RTP	RG-RTP GW:GW-RTP	DP-RTP	RL-RTP RG:RG-RTP	P-RTP	9./P-RTP RL:RL-RTP	CSS-RTP P:P-RTP
サンノゼ CA	 GW-SJ	RG-SJ GW:GW-SJ	DP-SJ	RL-SJ RG:RG-SJ	P-SJ	9./P-SJ RL:RL-SJ	CSS-SJ P:P-SJ

270721

ローカルルートグループの概要

同じ実装でローカルルートグループ機能を使用すると、サイトの数に関係なく、単一のルートリスト、パーティション、ルートパターン、および CSS を設定できるようになります。図 23-3 を参照してください。

図 23-3 ローカルルートグループを使用するローカルオフネットアクセスのプロビジョニング



この場合、次の設定が適用されます。

- すべての電話機が、単一の CSS-System コーリング サーチ スペース、および単一の P-System パーティションに属する。
- 所定のサイトのすべての電話機が、そのサイトに固有である 1 つのデバイス プールに属する。
- 各デバイス プールの [ローカルルートグループ (Local Route Group)] フィールドが、そのサイトの特定のルートグループを識別する。この例では、ボールドーは RG-Bldr、リチャードソンは RG-Rch となる。

このため、このケースでのルートリスト、ルートパターン、パーティション、およびコーリングサーチスペースは、それぞれ N 個から 1 個へと減少します。ゲートウェイ、ルートグループ、およびデバイスプールの数は、N 個のサイトに対して N 個のままです。

すべてのサイトから 9.@ パターンにアクセスするため、新しいパーティション P_System、および新しいコーリングサーチスペース CSS_System が追加されます。コーリングサーチスペース CSS_Boulder は、他のサイトの CSS と同様に、P_Boulder および P_System を含めることができます。

追加情報

P.23-18 の「関連項目」を参照してください。

テール エンド ホップ オフ

テール エンド ホップ オフ (TEHO) とは、VoIP ネットワークを越えて長距離電話をルーティングし、それらのコールをリモートのゲートウェイで市内電話として公衆電話交換網 (PSTN) にドロップすることを指します。TEHO を使用する場合、 N^2 個のエンティティを設定する代わりに N 個のエンティティを設定するだけでよく、設定上の複雑さを軽減できます。TEHO に関しては、次の状態を前提としています。

- 各サイトには、他の $N-1$ 個の各サイトに対する個別のルート パターン、およびルート リストが存在する。
- 所定のサイト S に関して、別の (リモート) サイトに対する $N-1$ 個の各ルート リストは、その別サイトにとってローカルな 1 つまたは複数のゲートウェイのルート グループを第 1 優先として持ち、次に、 S にとってローカルなルート グループを第 2 優先として持つ。したがって、十分なランキング リソースが使用可能で、第 1 優先となり得る場合、長距離電話はリモートサイトでゲートウェイを使用してオフネットとなるため、通話料金の課金対象になりません。十分なランキング リソースが使用可能でない場合、コールはデフォルトのローカルゲートウェイに戻り、通話料金の課金対象となります。

この場合もやはり、Cisco Unified Communications Manager は、すべてのサイトに対して同じルーティング ポリシーを持ちます。第 2 優先項目として、サイトのローカル PSTN でコールをルーティングすると (システムがリモートの PSTN でコールを市内電話としてドロップしなかった場合)、お客様はサイトごとにすべてのルーティング情報に関する別個のインスタンスをプロビジョニングするように強制されます。図 23-4 を参照してください (この図では、一部のサイトの構成を示しています)。各サイトには、他の $N-1$ 個の各サイトに対するルート パターンおよびルート リストの固有のセット、およびリモートのアクセス コードがカバーしていないその他すべてのコールに関する汎用のローカルルート リストがあります。この要件は、一般的なケースに関する $N*(N-1)+N$ 個、あるいは N^2 個のルート リストおよびルート パターンを必要とします。

図 23-4 ローカルルートグループを使用しない TEHO のプロビジョニング

サイト	パーティション	コーディング サーチ スペース	ルートパターン	ルートリスト
ポールダー CO	P-Bldr	CSS-Bldr P:P-Bldr	9.1.703.XXX.XXXX/ P-Bldr RL: RL-Bldr-Hrdn	RL-Bldr-Hrdn RG: RG-Hrdn RG-Bldr
			9.1.972.XXX.XXXX/ P-Bldr RL: RL-Bldr-Rch	RL-Bldr-Rch RG: RG-Rch RG-Bldr
			9.1.919.XXX.XXXX/ P-Bldr RL: RL-Bldr-RTP	RL-Bldr-RTP RG: RG-RTP RG-Bldr
			9.1.408.XXX.XXXX/ P-Bldr RL: RL-Bldr-SJ	RL-Bldr-SJ RG: RG-SJ RG-Bldr
			9.@/P-Bldr RL-Bldr-Local	RL-Bldr-Local RG: RG-Bldr
ハーンドン VA	P-Hrdn	CSS-Hrdn P:P-Hrdn	9.1.303.XXX.XXXX/ P-Hrdn RL: RL-Hrdn-Bldr	RL-Hrdn-Bldr RG: RG-Bldr RG-Hrdn
			9.1.972.XXX.XXXX/ P-Hrdn RL: RL-Hrdn-Rch	RL-Hrdn-Rch RG: RG-Rch RG-Hrdn
			9.1.919.XXX.XXXX/ P-Hrdn RL: RL-Hrdn-RTP	RL-Hrdn-RTP RG: RG-RTP RG-Hrdn
			9.1.408.XXX.XXXX/ P-Hrdn RL: RL-Hrdn-SJ	RL-Hrdn-SJ RG: RG-SJ RG-Hrdn
			9.@/P-Hrdn RL-Hrdn-Local	RL-Hrdn-Local RG: RG-Hrdn
リチャードソン TX	P-Rch	CSS-Rch P:P-Rch	9.1.303.XXX.XXXX/ P-Rch RL: RL-Rch-Bldr	RL-Rch-Bldr RG: RG-Bldr RG-Rch
			9.1.703.XXX.XXXX/ P-Rch RL: RL-Rch-Hrdn	RL-Rch-Hrdn RG: RG-Hrdn RG-Rch
			9.1.919.XXX.XXXX/ P-Rch RL: RL-Rch-RTP	RL-Rch-RTP RG: RG-RTP RG-Rch
			9.1.408.XXX.XXXX/ P-Rch RL: RL-Rch-SJ	RL-Rch-SJ RG: RG-SJ RG-Rch
			9.@/P-Rch RL-Rch-Local	RL-Rch-Local RG: RG-Rch

270723

ローカルルート グループ機能を使用する場合、リモート サイトに必要な $N*(N-1)$ 個のルート パターンおよびルート リストは N 個に減少し、 N 個のローカルルート パターンおよび ローカルルート リストは 1 個に減少します。全体的には図 23-5 のように、ルート リストおよびルート パターンの合計数は N^2 から $N+1$ に減少し、コーリング サーチ スペースおよびパーティションは N 個から 1 個に減少します。

図 23-5 ローカルルート グループを使用する TEHO のプロビジョニング

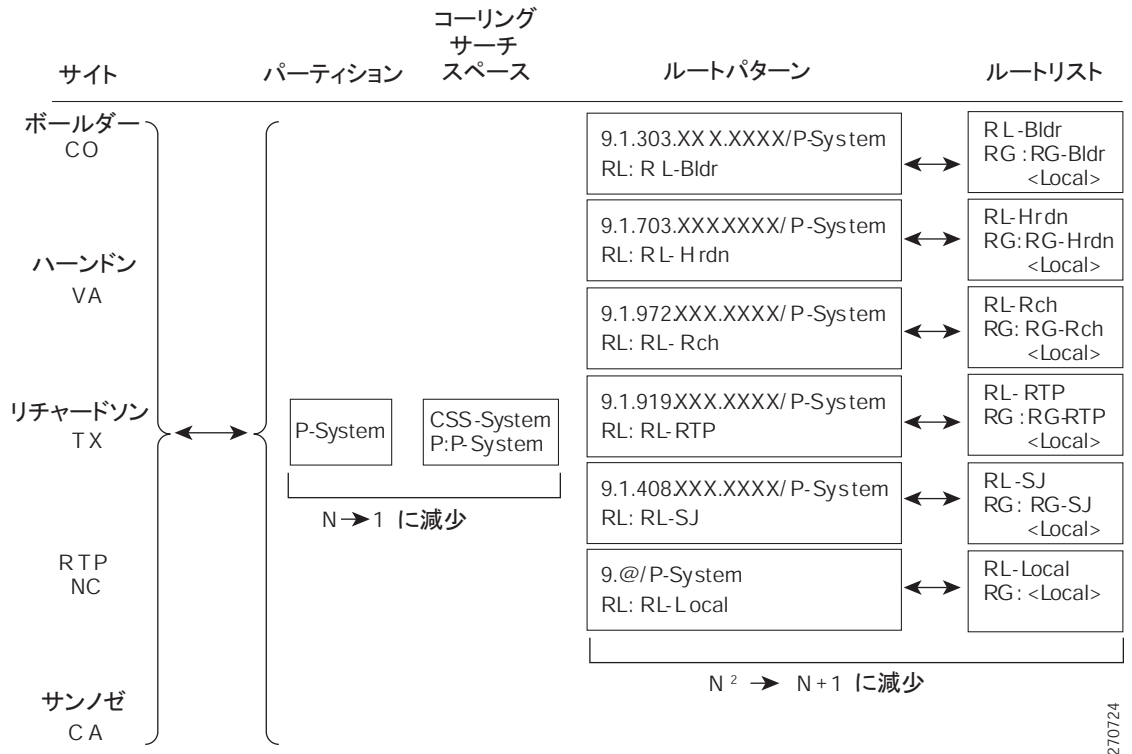


図 23-5 では、重要なエレメントが、各ルート リストの 2 番目の選択肢として標準ローカルルート グループを使用していることに注目してください。発信側デバイスのデバイス プールの設定によって、特定のコール中に使用される、実際のプロビジョニングされたルート グループが動的に決定されます。

追加情報

P.23-18 の「関連項目」を参照してください。

着信側変換

エンタープライズ番号とルート グループおよびゲートウェイとの間で疎結合が発生している最中には、ルートグループおよびゲートウェイと PSTN が予想するパターンとの間に極度の密結合が発生します。選択されたゲートウェイが 7 桁のダイヤリング ロケーションに存在する場合は、PSTN は 7 桁を予想します。選択されたゲートウェイが 10 桁のロケーションに存在する場合は、PSTN は 10 桁を予想して市内番号にアクセスします。

例 1

コールがダラスから発信された場合、その着信番号は 9.5551212 を示します。ダラスのローカルゲートウェイがビジーまたはアクセス不能である場合は、サンノゼのゲートウェイが選択されることを想定して、9.5551212 を、サンノゼのゲートウェイがダイヤルアウトする 1 214 555 1212 に変換する必要があります。

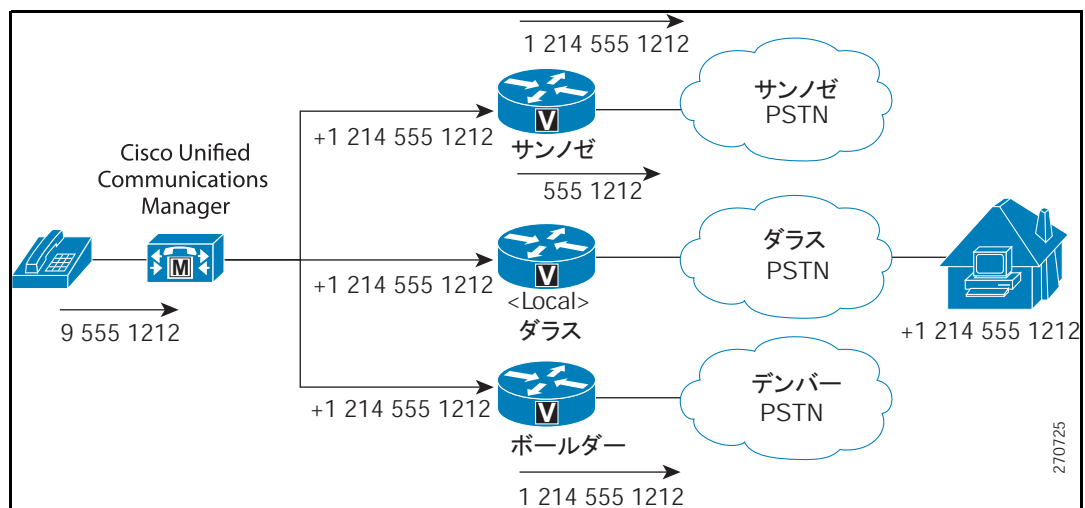
ローカルルートグループのケースに関する同じ例では、コールがダラスから発信されます。着信番号は 9.5551212 を示しているため、システムは次のアクションを実行します。

1. 発信者がダイヤルしたとおりの番号を使用して、PreDot を破棄し、プレフィックス +1 214 を挿入します。
2. コールの番号を、グローバルに一意である E.164 スtring (+1 214 555 1212) に変換します。

サンノゼのゲートウェイが選択された場合、システムはグローバル String である +1 214 555 1212 を 1 214 555 1212 に変換します。ダラスのゲートウェイが選択された場合、システムはグローバル String を 214 555 1212 に変換します。

この例の図については、[図 23-6](#) を参照してください。

図 23-6 コールされた番号の変換



例 2

コールが RTP から発信された場合、着信番号は 5551212 を示します。RTP のローカルゲートウェイがビジーまたはアクセス不能である場合は、サンノゼのゲートウェイが選択されることを想定して、5551212 を、サンノゼのゲートウェイがダイヤルアウトする 1 919 555 1212 に変換する必要があります。

ローカルルートグループのケースに関する同じ例では、コールが RTP から発信されます。着信番号は 9.5551212 を示しているため、システムは次のアクションを実行します。

1. ダイヤルしたとおりの番号を使用して、PreDot を破棄し、プレフィックス 91919 を挿入します。
2. 着信番号を、グローバルなダイヤリング String (9 1 919 555 1212) に変換します。

サンノゼのゲートウェイが選択された場合、システムはグローバルストリングである 91 919 555 1212 を 1 919 555 1212 に変換します。RTP ゲートウェイが選択された場合、システムはグローバルストリングを 555 1212 に変換します。

追加情報

着信側変換の詳細については、『*Cisco Unified Communications Manager システム ガイド*』の「ルートプランの概要」にある「着信側番号の変換設定値」の項を参照してください。

国際エスケープ文字+の詳細については、『*Cisco Unified Communications Manager システム ガイド*』の「ルートプランの概要」にある「国際エスケープ文字+の使用」の項を参照してください。

また、[P.23-18](#)の「[関連項目](#)」も参照してください。

ローカルルートグループのシステム要件

ローカルルートグループ機能には、次のシステム要件があります。

- Cisco Unified Communications Manager 7.0(1) 以降

追加情報

P.23-18 の「関連項目」を参照してください。

インタラクションおよび制限事項

次の項では、ローカルルートグループにおけるインタラクションおよび制限事項について説明します。

- インタラクション (P.23-12)
- 制限事項 (P.23-14)

追加情報

P.23-18 の「関連項目」を参照してください。

インタラクション

次の各項では、ローカルルートグループが Cisco Unified Communications Manager の他の機能およびアプリケーションとどのように通信するかについて説明します。

- サポートされるデバイス (P.23-12)
- 転送 (P.23-13)
- その他の補足サービス (P.23-13)
- ルートプランレポート (P.23-14)

追加情報

P.23-18 の「関連項目」を参照してください。

サポートされるデバイス

コールを発信することが可能な Cisco Unified Communications Manager のデバイスタイプはすべて、ローカルルートグループ機能をサポートします。これには次のデバイスが含まれます。

- Skinny デバイス
- H.323 デバイス
- SIP デバイス
- MGCP デバイス (すべての PRI バリエント、BRI、および MGCP 電話機を含む)
- CTI デバイス

転送

転送されたコールに関しては、Cisco Unified Communications Manager は、プロビジョニングされているローカル ルート グループを検索するために、転送先に関連付けられたデバイス プールの設定においてプロビジョニングされているローカル ルート グループを使用します。したがって、電話機 A が (ローカルの) 電話機 B にコールし、電話機 B がそのコールを (リモートの) 電話機 C に転送する場合、電話機 B ではなく、電話機 A のデバイス プールのローカル ルート グループ値が使用されます。

その他の補足サービス

多くの補足サービスは、コールを発信できます。このように発信されたコールでは、ローカル ルート グループはスキップされます。

コールを発信できるのは、次の機能です。

- コールバック
- MWI
- モビリティ (フォローミー)
- パス置換

標準ローカル ルート グループがスキップされることによって検索が終了すると (つまり、標準ローカル ルート グループがルート リスト内の最後または唯一のルート グループとなった場合)、ルーティングは中断します。

コールを転送できるのは、次の機能です。

- 割り込み
- コールバック
- コールパーク
- 会議
- ダイレクト コールパーク
- 転送
- 即時転送
- ミートミー会議
- コール ピックアップ

P.23-13 の「転送」で説明したとおり、Cisco Unified Communications Manager は、プロビジョニングされているローカル ルート グループを検索するために、転送先に関連付けられたデバイス プールの設定においてプロビジョニングされているローカル ルート グループを使用します。

ルート プラン レポート

ルート プラン レポートには、ルート リスト、関連するルート グループ、およびトランクやゲートウェイなどのルートに関する詳細が示されます。特別な標準ローカル ルート グループも示されず。次はその一例です。

ローカル ルート グループを使用しないルート パターンに対するルート プラン レポートの表示例

BoulderRouteList

```
|_ BoulderRG
  |_ BoulderGW1
  |_ BoulderGW2
```

ローカル ルート グループを使用するルート プラン レポートの表示例

SystemRouteList

```
|_ 標準ローカル ルート グループ
```

制限事項

ローカルルート グループを設定する前に、次の制限事項を確認してください。

- [混合されたルート リスト \(P.23-14\)](#)

混合されたルート リスト

SIP ルート グループ、および Q.SIG ルート グループを、同時に 1 つのルート リストに挿入することはできません。ローカル ルート グループ機能を使用する場合、混合されたルート リストの規則はプロビジョニング中には強化されません。これは、コールの設定中に、標準ローカル ルート グループと、プロビジョニングされたルート グループとの間にバインドが動的に発生するためです。このため、一部の Q.SIG 関連機能が利用できなくなる場合があります。標準ローカル ルート グループから Q.SIG ルート グループへのバインドは避けてください。

追加情報

[P.23-18 の「関連項目」](#)を参照してください。

ローカル ルート グループのインストールとアクティブ化

Cisco Unified Communications Manager Release 7.0(1) 以降をインストールすると、ローカル ルート グループを設定できるようになります。

追加情報

P.23-18 の「関連項目」を参照してください。

ローカル ルート グループの設定

この項は、次の内容で構成されています。

- ローカル ルート グループの設定チェックリスト (P.23-15)
- ローカル ルート グループのサービス パラメータの設定 (P.23-17)

追加情報

P.23-18 の「関連項目」を参照してください。

ローカル ルート グループの設定チェックリスト

表 23-1 に、ローカル ルート グループ機能を設定するタスクの一覧を示します。

表 23-1 ローカル ルート グループの設定チェックリスト

設定手順	関連手順と関連項目
ステップ 1 この機能のインタラクションと制限事項を確認します。	インタラクション (P.23-12) 制限事項 (P.23-14)
ステップ 2 まだ実行していない場合は、Cisco Unified Serviceability で Cisco CallManager サービスをアクティブにします。	<i>Cisco Unified Serviceability</i> アドミニストレーションガイド
ステップ 3 Cisco Unified Communications Manager の管理ページの [コールルーティング (Call Routing)] > [ルート / ハント (Route/Hunt)] > [ルートリスト (Route List)] メニュー オプションを使用して、標準ローカル ルート グループをルート リストのメンバとして含むローカル ルート リストを設定します。	<i>『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』</i> の「ルートリストの設定」
ステップ 4 Cisco Unified Communications Manager の管理ページの [システム (System)] > [デバイスプール (Device Pool)] メニュー オプションを使用して、Cisco Unified Communications Manager 実装におけるデバイス プールに対してローカル ルート グループを設定します。設定する各デバイス プールに対して、そのデバイス プールのローカル ルート グループとして使用するルート グループを指定します。 また、ユーザは各デバイス プールに対して、そのデバイス プールのデバイスの着信側変換 CSS を設定できます。	<i>『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』</i> の「デバイス プールの設定」

■ ローカルルートグループの設定

表 23-1 ローカルルートグループの設定チェックリスト (続き)

設定手順	関連手順と関連項目
ステップ 5 <p>ダイヤルプランがグローバル化されておらず、またローカルルートグループが着信側のトランスフォーメーションパターンを使用する必要がある場合には、Cisco Unified Communications Manager の管理ページの [デバイス (Device)] > [ゲートウェイ (Gateway)] および [デバイス (Device)] > [トランク (Trunk)] メニュー オプションを使用して、各ロケーションのゲートウェイおよびトランクを設定します。</p> <p>ローカルルートグループ機能を設定する各デバイスに対しては、次のフィールドを設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [着信側変換 CSS (Called Party Transformation CSS)] : CSS を選択して、デバイスの着信側番号のローカライズを許可します。 • [デバイスプールの着信側変換 CSS を使用 (Use Device Pool Called Party Transformation CSS)] : デバイスが属するデバイスプールによって指定されている着信側変換 CSS を使用するには、このチェックボックスをオンにします。このチェックボックスがオフになっている場合は、デバイスに対して指定されている着信側変換 CSS が使用されます。 	<p>『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「ゲートウェイの設定」</p> <p>『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「トランクの設定」</p>
ステップ 6 <p>Cisco Unified Communications Manager の管理ページの [コールルーティング (Call Routing)] > [トランスフォーメーションパターン (Transformation Pattern)] > [着信側トランスフォーメーションパターン (Called Party Transformation Pattern)] メニュー項目を使用して、コールがゲートウェイを介してルーティングされる前に、番号に関する着信側トランスフォーメーションパターンを設定します。</p>	<p>『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「着信側トランスフォーメーションパターンの設定」</p>
ステップ 7 <p>標準ローカルルートグループを使用するように設定されたルートリストを使用するため、Cisco Unified Communications Manager の管理ページで [コールルーティング (Call Routing)] > [ルート/ハント (Route/Hunt)] > [ルートパターン (Route Pattern)] メニュー項目を使用して、ルートパターンを設定します。</p>	<p>『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「ルートパターンの設定」</p>
ステップ 8 <p>Cisco Unified Communications Manager の管理ページで [コールルーティング (Call Routing)] > [ルートプランレポート (Route Plan Report)] メニュー オプションを使用して、実装に関するルートプランレポートを生成および表示します。</p> <p>実行したプロビジョニングがローカルルートグループの設定に対して正しいかどうかを確認するには、このルートプランレポートをチェックします。</p>	<p>『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「ルートプランレポート」</p>

追加情報

P.23-18 の「関連項目」を参照してください。

ローカルルート グループのサービス パラメータの設定

ローカルルート グループ機能は、追加のサービス パラメータの設定を必要としません。

追加情報

P.23-18 の「[関連項目](#)」を参照してください。

関連項目

- ローカルルートグループの概要 (P.23-2)
- ローカルルートグループ (P.23-3)
- コール中に、プロビジョニングされたルートグループをローカルルートグループへバインド (P.23-3)
- ローカルルートグループでのルーティング (P.23-4)
- 着信側変換 (P.23-9)
- ローカルルートグループのシステム要件 (P.23-12)
- インタラクションおよび制限事項 (P.23-12)
- ローカルルートグループのインストールとアクティブ化 (P.23-15)
- ローカルルートグループの設定 (P.23-15)
- ローカルルートグループの設定チェックリスト (P.23-15)
- ローカルルートグループのサービスパラメータの設定 (P.23-17)
- 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「ルートリストの設定」
- 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「デバイスプールの設定」
- 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「ゲートウェイの設定」
- 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「トランクの設定」
- 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の着信側トランスフォーメーションパターンの設定
- 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「発呼側トランスフォーメーションパターンの設定」
- 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「ルートパターンの設定」
- 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「ルートプランレポート」
- 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「ルートグループの設定」
- 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「コーリングサーチスペースの設定」
- 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「パーティションの設定」
- 『Cisco Unified Communications Manager システムガイド』の「Cisco Unified Communications Manager 音声ゲートウェイの概要」
- 『Cisco Unified Communications Manager システムガイド』の「ルートプランの概要」
- 『Cisco Unified Communications Manager システムガイド』の「パーティションおよびコーリングサーチスペース」
- 『Cisco Unified Communications Manager システムガイド』の「システムレベルのコンフィギュレーション設定」